

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970201232		
法人名	医療法人孝栄会		
事業所名	陽だまり		
所在地	栃木県足利市島田町754番地1		
自己評価作成日	平成26年9月16日	評価結果市町村受理日	平成27年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/Top.do">http://www.t-kicenter.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成26年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

陽だまりでは、最近職員がよくこう言います。「前は入居さんがみんな明るくて楽しい人ばかりで、にぎやかで外出好きだったよね」と。なぜなら、ここ2、3年の間に入居さんが様変わりして、認知症以外に精神疾患を持った方が増え今では半数以上になりました。落ち込みやすい方、こだわりが強い方、閉じこもりがちで他者との交流を好まない方など、いろいろな悩みを抱えている方への対応に、日々私たち職員の力量が試されているようです。外出一つとっても、全員で行くのは至難の技で、出掛けるまでかなりのエネルギーを消費してしまい、それでも全員揃って出掛けられるのは稀です。お風呂も極端に嫌いな方がいて、あの手この手を必死になって考えても、拒否の嵐に吹かれる日々です。でも、私たちはめげないんです。いつか笑顔にしてやろう、いつか気持ちよく入浴してもらおう、いつかみんなで競って出掛けよう、と毎日毎日脳みそを絞出すように考え悩んで、実践してはあえなく撃沈……。でも、医療法人の強みを活かし、明日もあさっても私たちは前を見て頑張ります! 信じる者は救われる、カナ?

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時には地域住民のグループホームへの理解がなかなか得られず大変な時期があったのが嘘のように、現在では自治会の体育祭に参加をしたり、毎月第3水曜日に行われるサロンへ参加する等、地域交流が盛んになっている。事業所の消防訓練には近隣住民が参加したり、自治会の消防訓練には入居者が参加する等、地域との協力体制も確立している。また、法人内外の研修制度が充実しており職員のスキルアップに寄与している。また、開設当初から勤務している職員が多く、職員同士の意思疎通が図りやすい。具体的実践を記載した「ケアノート」を職員が共有し日々の実践に工夫を重ねながら、様々な疾患を持つ入居者に対しても適切な支援が実施されている。「そのひとらしく」「いきいき」という理念の基、入居者本位の生活が送れるように取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は理念を共有し「その人らしく」とはどういうことか「いきいきと」生活していただくにはどうすればいいかを、日々考えながら入居者に接し、実践するための努力を惜しまず取り組んでいる。	ここ数年、精神疾患を伴う入居者が増え、今までの支援の方法を見直す機会が増えている。管理者や職員は、「その人らしく」「いきいき」という理念に立ち戻り、入居者にとって最善の方法を、その都度検討しながら支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事や集まりに積極的に参加し、当事業所にも地域の方が来られるように交流会を行ない、買い物や美容室等も地元を利用し、地域の方たちと交流しながら生活できるように努めている。	今年10月、自治会対抗の体育祭に、入居者・職員で参加している。まるで自分が競技に参加しているかのように競技を行う人たちへ大きな声援を送る姿があった。毎月第3水曜日、地域のサロンに入居者が数名参加をしている。今月、当事業所で行うミニ運動会にサロン等で顔なじみになった	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人が地域の人々に向けて行う認知症の講演会や相談会に参加し、日々の実践経験を地域の人々に伝え、認知症の人の理解のつながるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で得た意見を法人全体の取り組みとして取り上げ、実践に向けて話し合い、法人全体の向上と共に入居者や地域の方々へのサービス向上になるように取り組んでいる。	参加者は市担当者、自治会長、利用者、利用者家族となっている。参加者はあえて少なくし、堅苦しくない雰囲気の中で進められている。話し合いの場所も、掘り炬燵のある和室で行う等、リラックスできる雰囲気で行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険や社会福祉に関する相談をしたり、調査には積極的に協力し、介護保険運営協議会にも参加している。	事業所で直面している課題や実情を、電話や担当課へ直接出向き伝えている。また、当事業所が中心となり、市内にあるグループホームによる同業者間交流を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員は、身体拘束について正しく理解し安全に配慮した見守りを実践しており、日中玄関は施錠せず敷地内を自由に入出入りしてもらっているが、安全のため門を出る時は職員付き添いしている。	入居者が動き出そうとする時、「何らかの理由があつて動く」ということを念頭に置いて対応をしている。さりげない見守りのもと、入居者は自由に事業所内外を歩っている。また、法人として、「職員行動基準自己評価リスト」を用いて、職員自らが身体拘束や虐待について振り返りが出来る様に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員は、高齢者虐待について正しく理解し尊厳を守るように努め、法人全体でも「虐待早期発見チェックシート」と「職員行動基準自己評価リスト」を使い虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護について学ぶ機会を持ち、利用している入居者については理解を深め、個々の必要性についてもその都度話し合う機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には内容を説明し、解約の条件等も伝え、料金や加算の改定の時は文書にて説明し、十分な理解が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見を必ず聞き、表わせない方には少しでも気持ちが表わせるように支援し、家族からも運営推進会議や訪問時、電話の際に積極的に話しかけ、気軽に意見を言ってもらえるように努め、それらを運営に反映させている。	入居者一人ひとりに意見を聞いている。言葉で表現することが難しい方には、普段声かけをした際に見せる表情や仕草を見逃さないようにしている。家族には、毎月、本人の様子を記載した便りを送付したり電話をかける等して意見を貰えるように努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員の意見を聞く機会を設けており、管理者は毎月のミーティングで出た意見を取り上げ職員で議論し運営に反映させ、日常的にも意見を言える雰囲気を作っている。	毎月のミーティング以外でも、日常的に気が付いたことは、その都度、ケアノートに記載している。記載した内容に対して、他職員が各々コメントをすることで、全体として協議が出来ている。入居者一人ひとりに対する支援の方法が統一出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状態や実績を把握し、処遇に反映させ、資格取得を促すと共に規定以上の職員を配置し、職員が働きやすい環境を整備している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員のレベルアップのために外部研修への参加を奨励し、法人内でも段階に応じた研修が受けられるように整備を進め、職場内でも定期的に勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者や職員は、市内の同業者と交流する機会を持ち、互いの意見を交換し悩みや疑問の解消に努め、電話では日常的に相談しあい、サービス向上の参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、できるだけホームに見学に来てもらい、不安や困っていることを聞きながら雰囲気を感じてもらい、少しでも安心してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の入居にいたる気持ちを聞いて受け止め、本人の要望と合わせて、双方が良い方向に行くようになんでも話し合える関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初に本人と家族の必要としている支援のために何が必要かを考え、法人内の他のサービスを含めたサービス利用についても検討し、柔軟な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人に対して介護者としてではなく生活を共有する者同士として接し、喜怒哀楽を分かち合い、思いを汲み取ってその人らしさとは何かを考えながら接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族に対しては共に本人を支える協力者として接し、本人の希望を叶えるための協力をお願いし、将来について話し合いながら、信頼関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの方とは継続して付き合えるように支援し、行きつけの美容室や場所に継続して行けるようにしている。	入居者が近所を散歩していて、知人宅に立ち寄りたい希望がでた時にはなるべく希望に沿えるように支援をしている。今後、地域の方が気軽に事業所に立ち寄れるようにと、馴染みの関係作りのきっかけとして餅つきやミニ運動会への招待を行っている。	地域の方が気軽に事業所に立ち寄れるように、様々な行事を継続実施することで、招待する、されるの関係から馴染みの関係となることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、相性を考慮しながら、大きなトラブルにならないように見守りつつ、入居者同士の協力や反発、お互いを意識した共同生活が送れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて情報収集に努め、その後も相談にのり、必要な時は住み替え先を探し、暮らしの継続のための情報を提供している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何事もまず本人に聞き、できる限り意向を引き出し、言葉でうまく現わせない方や何も希望がない方についても、職員で話し合い少しでも本人の思いに近づくように努めている。	入居者一人ひとりに意見を聞いている。「返事が返ってこないだろうな」と思われる入居者に対しても、必ず本人に気持ちや意見を聞いている。返答がなくても、仕草や表情から推測して支援内容を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、これまでの暮らしぶりや生活環境などの把握に努め、本人や関係者からできるだけ情報を集めて、入居後の生活に活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を把握し、身体能力や持てる力、やりたいと言う気持ちを、生活のあらゆる場面で発揮する機会が持てるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の意向をもとに、現状での課題や楽しく暮らすために必要なことを話し合い、そのために医師やOTなどにも意見を聞き、介護計画に反映させ、モニタリングをしながら随時見直している。	本人と家族の意向を基に、看護師や医師、作業療法士に意見を貰い計画を立てている。介護計画は3か月毎に見直しを行い、急変時には随時検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中で、本人らしさが出た場面やちょっとした変化や気づきや介護計画の実践の結果を個別の介護記録に記入し、職員間で共有しケアの工夫や介護計画の見直しの際に参考にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の医師や看護師、OTと連携し、体調の変化や状態の変化に対応し、また精神疾患の勉強会を行い、個々の持つ精神疾患へも適切に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で安心していけるお店や、入居者を理解して受け入れてくれる場所を増やしていき、入居者の生活が広がり豊かになるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族の希望に沿って行い、希望がない場合は了解をもらってから協力病院に受診し、適切な医療を受けられるように支援している。	受診は本人や家族の希望に沿っている。看護師の巡回が毎週月曜日にある。また、医師の訪問診療もあるため、こまめに日々の様子や変化を報告できる。医療の相談がしやすい体制である。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が週に一度訪問した際には、日常生活の中での変化や気づきを報告し、心配に思うことや疑問を相談し、適切な対応や医療につなげるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際は、ダメージを最小限にするように十分な情報提供を行い、入院中も病院関係者との情報交換をして、早期退院に向けての話し合いを行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期については、事前に指針を説明した上で、状況に応じて医師を交えて話し合いを行い、法人内とも協力する体制になっている。	法人としての看取りに関する指針が作成されている。入居者の身体状況や精神状態の変化を見ながら、本人や家族、医師と話し合いをもち、入居者本人にとって、最善の医療や介護を提供できるように法人全体で支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時の行動は、マニュアル化して統一し、職場内の応急手当普及員を中心として、AEDの操作や応急手当法の勉強会を定期的に行い、いざと言う時に迅速に行動できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内の震災委員会を中心として、職場内にあらゆる災害に対する備えや行動基準を設け、地域とも運営推進会議等で協力体制について話し合い、地域の防災訓練にも毎回参加している。	地域住民も参加し、年2回事業所において消防訓練を行っている。自治会主催の消防訓練に職員と共に入居者も参加している。また、事業所内にAEDが設置されており、職員は緊急時にも速やかに対応が出来る。共有トイレ、台所、非常時持ち出し袋、外部収納庫に、災害用として水が入った2リットルのペットボトルを常備し、日常的に災害対策に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳やプライバシーへの配慮を損なわないように配慮しつつ、一方で親しみを込めた呼びかけを行い、個人情報の取り扱いマニュアルに沿って慎重に行なっている。	一人ひとりを尊重し、その人に合わせた支援を行っている。名前の呼び方も名字ではなく名前で呼ぶ方もいる。入居者の部屋へ入室する際は、本人に必ず許可を得る対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事においてもまず、本人に意見を聞き、意思を確認した上で決定し、意思を表わせない方についても、本人らしさが表わせるように考えて支援している、		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れを職員の都合で決めずに、入居者一人ひとりのペースや希望に合わせて柔軟に対応し、一日のどこかで必ずその人の力が発揮でき笑顔になれる時間が持てるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に行き、希望があれば職員が毛染めや髪の設定を手伝い、好みの服やアクセサリなどを身につけ、おしゃれを楽しめるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の意見を聞いた上でチラシや料理本を活用しメニューを決め、買い物・調理・後片付けなどの一連の作業の中で、できる所に参加してもらい、職員も一緒に食べ食事を共に楽しんでいる。	「自分で出来ることを行う」を重要視した支援を行っている。例えば、もやしのひげを取るという作業や買い出しに行くという形で調理に参加している。出来ないから参加しないのではなく、入居者がこれならできるのではないかと常に探しながら支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みを優先させた上で、職員が栄養バランスを考え、嚥下や咀嚼の状態に合わせた形態で提供し、食事や水分量もチェック表に記入して、一日の摂取量を確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた介助方法で口腔ケアを行い、夜間は入れ歯の消毒を支援し清潔保持に努め、異常があれば早めに歯科受診や訪問歯科を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりに合わせた排泄介助を行い、日中はできるだけパンツを使用し、トイレで気持ちよく排泄できるように支援し、うまくいった場合はケアノートに記入し共有している。	トイレで排泄することを念頭に、本人の排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行っている。入居者の状態を見ながらハビリパンツから布パンツと尿とりパッド、布パンツと尿とりパッドから布パンツとなるように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事や乳製品をメニューに取り入れ、水分量に注意し、適度な運動や腹部マッサージを行っているが、それでも便秘気味な方には医師と相談して服薬支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をして	一人ひとりの希望に沿って、ゆっくり入って頂いているが、入浴を極端に嫌う方には、誘い方を工夫して色々試しているが、時には清潔保持を優先して入って頂くことがある。	入浴は基本的には夕方から一人ずつ行われる。入居者の希望で毎日入浴する方から、なかなか入浴したくない方までいる。入浴拒否の強い方には、職員が一丸となり、あの手この手を使い誘導している。入居者の日々の様子や状態を見ながら、最低でも3日に1回は入浴出来る様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は一人ひとり違っており、その方に合わせた支援を心がけ、眠れない方の話し相手をしたり、疲れている時はゆっくり休めるように、飲み物や落ち着ける場所を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容を理解し、服薬時は袋をわかりやすくして二重のチェックを行い、服薬による体調の変化に注意し、特に薬の変更時は些細なことを見逃さず医師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日の中で何がしかの家事には参加して頂き、季節の行事やレクリエーションの準備と一緒に楽しめるようにしているが、閉じこもりがちな方や人との交流を嫌う方に対して、楽しんで頂くための支援を日々話し合っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の食材の買い物は希望者と行き、散歩や地域の行事にも積極的に参加し、外出や外食を定期的に取り入れ気分転換を図り、行きたい場所にも家族の協力を得てできるだけ行けるように支援している。	毎日、近所で食材が安く購入できるお店に職員と一緒に買い出しに出かけている。買い出しの際は入居者一人ずつ連れて行くため、入居者の気分転換にもなっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望された方は自分でお金を持ち、電話や好きな物を買ったり、孫にお小遣いをあげたりしているが、自己管理をしていない方にも、好きな物が買えることを伝え、外出時には好きなことに使ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由にやり取りしてもらっているが、一人では困難な方には希望の相手とやり取りできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は天井が高く風通しもよく、外も見えて開放的で落ち着いた雰囲気になっており、必要以上に物がなく広々としているが、ところどころにくつろげるスペースがあり、季節感のある飾り付けや小物を配置している。	共用空間の天井にスプリンクラーが設置されているが、木造の温かみを壊さないように、配管を木箱で隠す工夫がされている。広い共有空間はソファで間仕切りし一人になれる空間を作っている。近年、2匹の猫が住み着いており、いつの間にか入居者の一員のような存在になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中にソファやベンチ、堀ゴタツがあり、気の合った者同士で過ごしたり、一人でくつろいだりできるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族が自由に好みの物を持ち込めるようになっており、馴染みの物や大切な物を身近に置いて、居心地よく暮らせるようにしてもらいながら、安全面にも配慮している。	各居室内の壁に設置してあるピクチャーレールを活用し、入居者が各々の好みで花や絵画等を飾っている。額に入れて飾る場合は地震等でガラスが割れることを想定し、ガラスを外しラップや透明なフィルムに替えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見やすい場所にカレンダーや時計を飾り、車椅子の方でも楽しめるようにポーチにプランターを置き、台所も入居者に合わせて低くなっており、誰でも入りやすくなっている。		